

全国的に多い「どんと焼」

名前の由来は諸説あるが、火がどんどん燃えるさまからきている説や、年神が「お歳徳(とんど)」と呼ばれ、これがあつたことからどんと祭となったとする説などがある。呼び名は「とんど」のほか、「とんと」「や」と「んど」という地域がある。

「おれんど」は、道祖神であるサイの神に、灯りの「ど」がついたものという説がある。呼び名は同じでも「お柴灯」「お斎燈」「お祭灯」などがある。

「ヤハハエロ」は、わらで作った田舎状のものという説や笑い声という説がある。

野焼きは大丈夫？

屋外でゴミなどの廃棄物を燃やすことは、法律や県条例で原則として禁止されている。

ただし、風俗慣習上、地域の行事として行う不要となった門松やしめ縄等の焼却は例外扱いとされている。

どんと焼き (どんと・とんど)

左義長

(正月遊びに使う杖のようなものを「ぎっちょう」と言い、それを焼く行事が由来という説がある)

どんと焼き (どんと祭)

おさいど

おさいと
おさいとう
お柴灯
お斎燈
お祭灯

ヤハハエロ

編集部調べ

県内各地で様々な呼び名や表記があるため、代表的なものを図化した

小正月行事「どんと焼き」の全国調査集計(NPO法人地域資料デジタル化研究会)を参考に編集部で作図

山形名物

どんとどん焼き

県の村山地方で普及している「どんとん焼き」という食べ物がある。ルーツは、もんじゃ焼きを手に持って食べられるようにしたものと言われている。小麦粉をメインに割り箸に巻き付けたものにソースをつけて食べるのが一般的である。

昭和初期に東京で評判になり、屋台で「どんとん」と太鼓を鳴らして売られていたことからこの名前が付いたという説がある。現在では東北の一部に残されているのみとなっている。山形市内にはどんとん焼きが食べられるお店があるほか、お祭りやイベントなどでよく出店されている。

ちなみに、「どんと焼」とは一字違いであるが、歴史的なつながりはないようである。



どんど焼、おさいど、ヤハエ口…

新年の火まつり



一年をすこやかに と願う伝統行事

小正月行事としてほぼ全国的に行われてきた「火まつり」。正月飾りで出迎えた年神を、それらを焼くことにより災とともに見送る意味があるとされる。

県内でも小正月の1月15日頃に広く一般的に行われてきたが時代とともに数が減り、現在では子供育成会や地域行事として行われている例が多い。

地域によって様々な呼び方をされていて、県内では山形市や鶴岡市などで「どんど焼」、最上や村山地方などで広く呼ばれている「おさいど」、置賜の中西部では「ヤハエ口」などと呼ばれている。

写真は、飯豊町中津川地区のヤハエ口で、地区の雪まつりイベントでの様子である。

今年も平成25年2月23日（土）に白川ダム湖畔公園特設会場で開催される。ライトアップされた巨大な雪像が冬の夜を彩る。長さ25mの巨大すべり台や巨大風船飛ばしなど、イベント満載である。